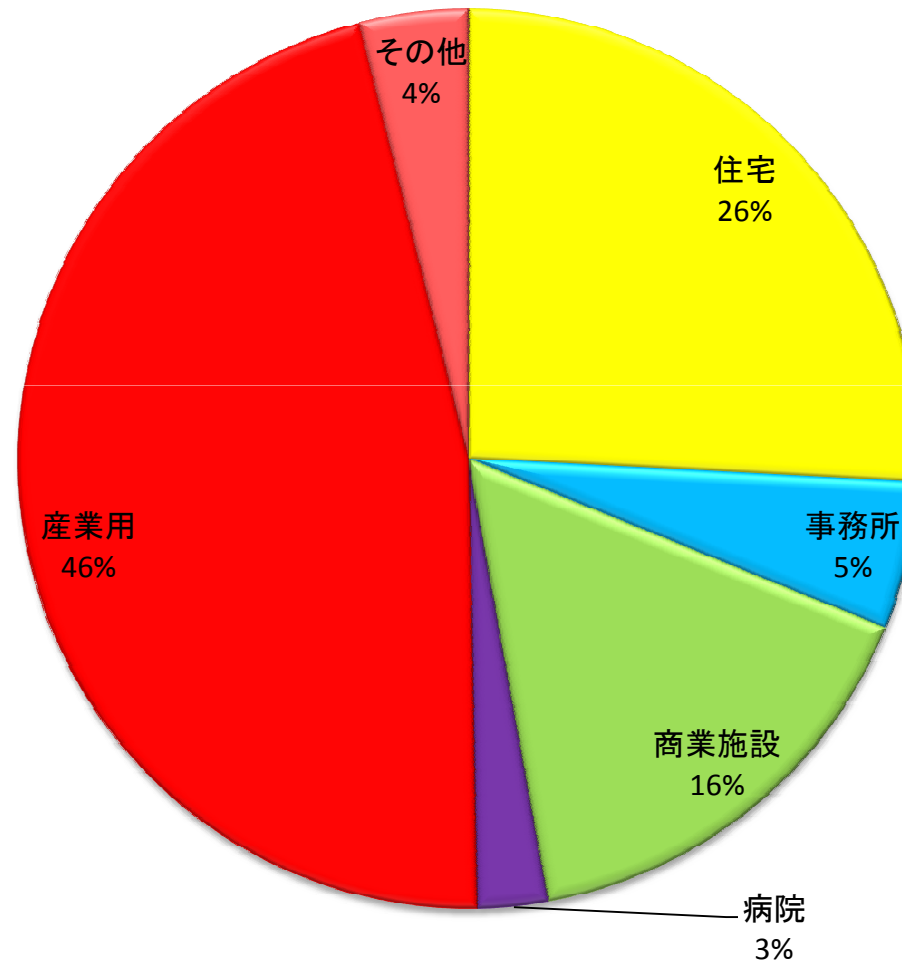


電力需給ひっ迫への対応

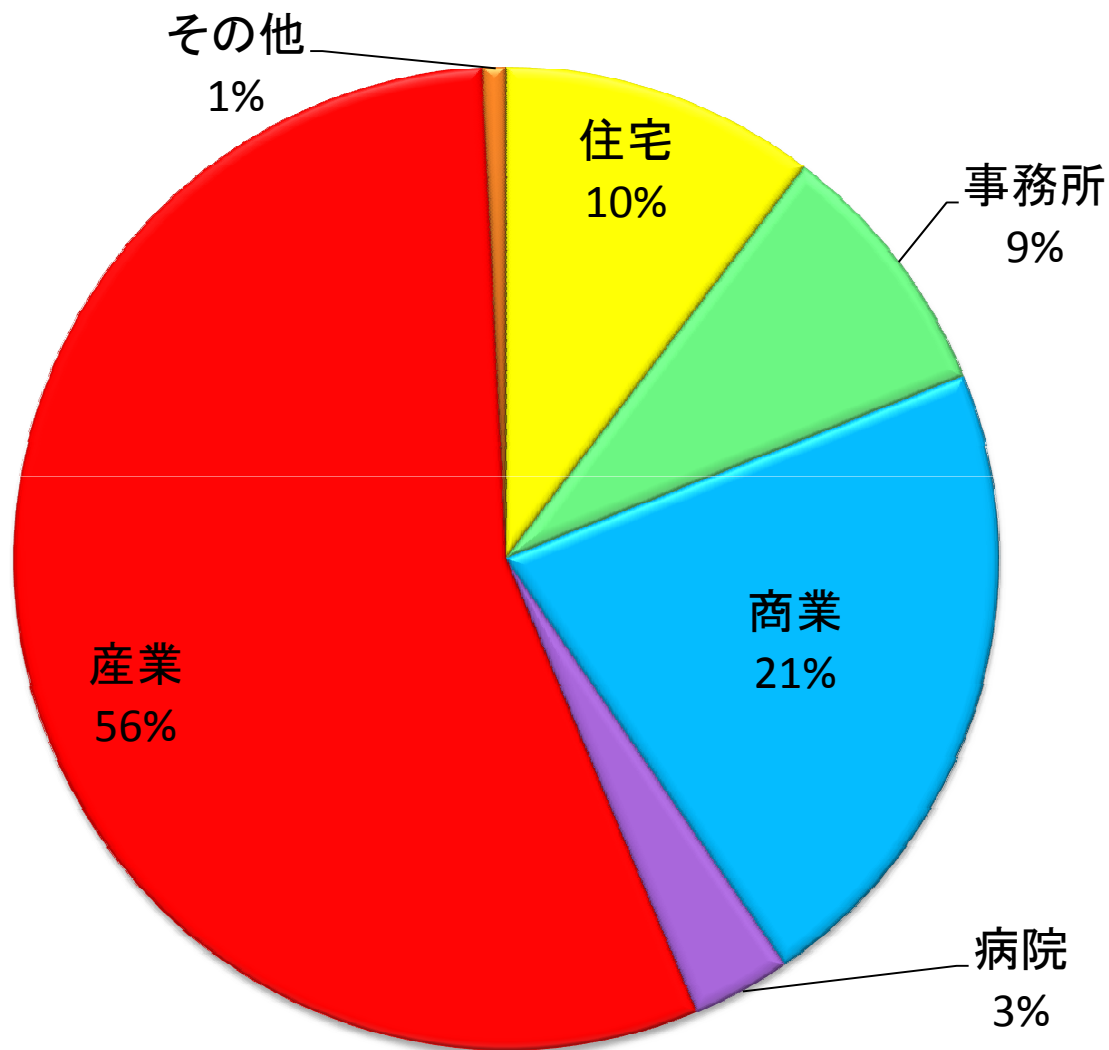
岐阜県内の電力使用状況

平成22年度電力使用量比率



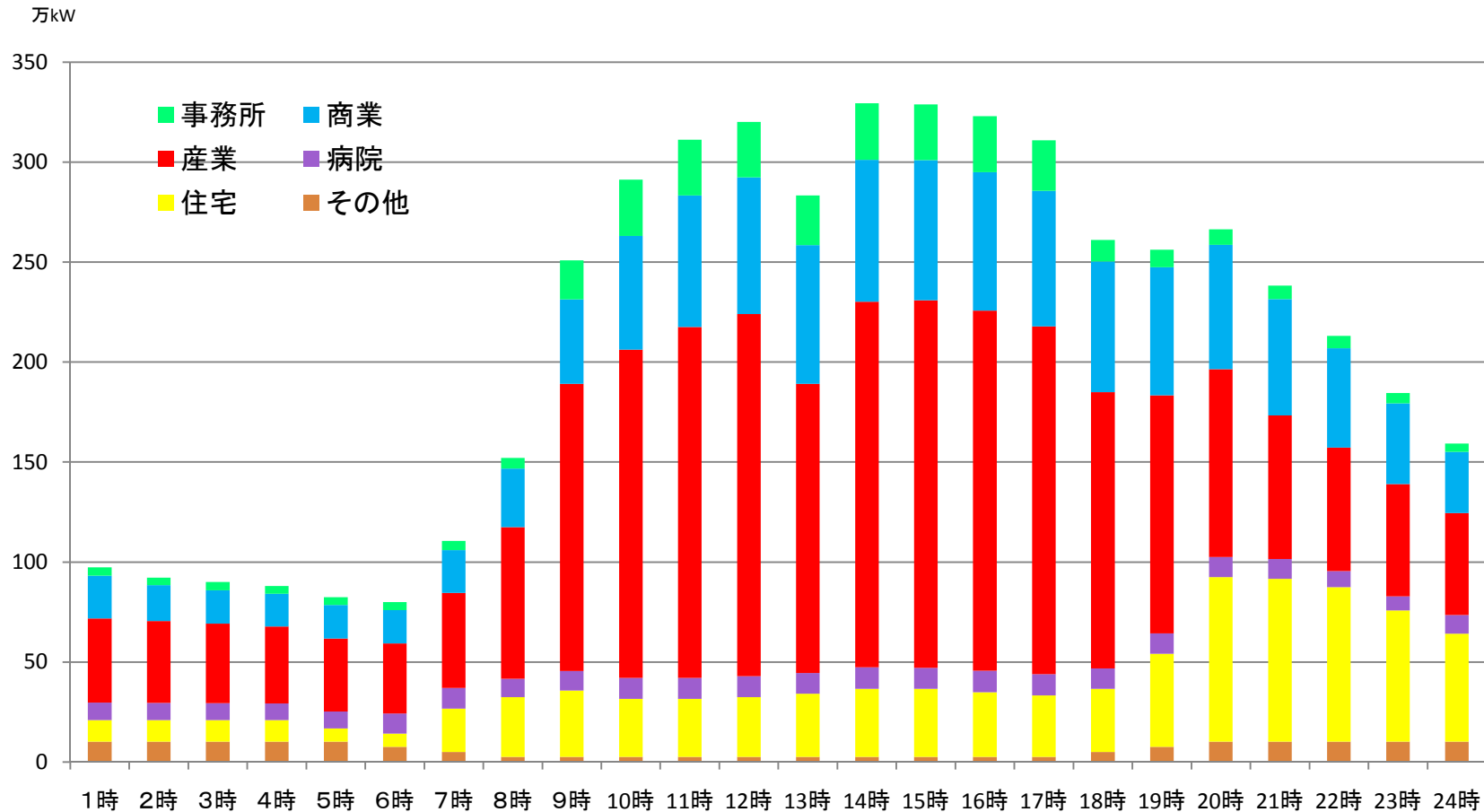
※中部電力(株)岐阜支店の「販売電力使用量実績」等にもとづき岐阜県で推計・作成

ピーク時(13時～14時)の電力需要比率



※中部電力(株)岐阜支店の「販売電力使用量実績」等に基づき岐阜県で推計・作成

岐阜県における電力の需要カーブ



※中部電力(株)岐阜支店の最大電力(平成22年8月31日をイメージ)に基づき、岐阜県で推計・作成
※事務所、商業、産業及び病院の需要カーブは固有施設の実データ、住宅の需給カーブは、「コージェネレーション総合マニュアル」による
※その他は、道路管理者への聞き取りによる

電力のピークが発生するのは、午後2時。大きく寄与するのは産業部門
なお、住宅においては、照明や電気調理器などが稼動する午後8時がピーク

中部電力管内の電力需給予測

○今夏の電力需給状況は、

	7月	8月	9月
最大電力(万kW)	2, 560	2, 560	2, 432
供給力 (万kW)	2, 684	2, 695	2, 600
供給予備力(万kW)	124	135	168
供給予備率 (%)	4.8	5.3	6.9

○しかし、

- ・外気1℃上昇で、80万KWの需用増加→供給予備率3%に相当
- ・故障等により100万KW級の発電機が停止すると、供給予備率約4%低下

安定供給の目安、供給予備率8%～10%には達していない。

岐阜県全体として何をすべきか

電力の供給予備率を、10%まで引き上げる



ピーク時における電力消費を5%程度低減

- 対策を実施する際には以下の点について留意
 - 県経済、県民生活への影響
 - 費用対効果及び即効性の高い対策

ソフト面での主な省エネルギー対策

各部門	具体の省エネルギー対策	想定削減率
住宅	○窓への日差し軽減のための「すだれ」や「よしず」設置	10%
	○空調機設定温度を2℃引き上げる	10%
病院	○使用していないエリアの消灯徹底	4%
事務所	○使用していないエリアの消灯徹底	3%
	○執務室の空調設定温度を2℃引き上げる	4%
商業	○店舗照明の間引き	11%
	○店舗の空調設定温度を2℃引き上げる	1%
産業	○省エネルギー診断による機械設備の運転見直し	5%

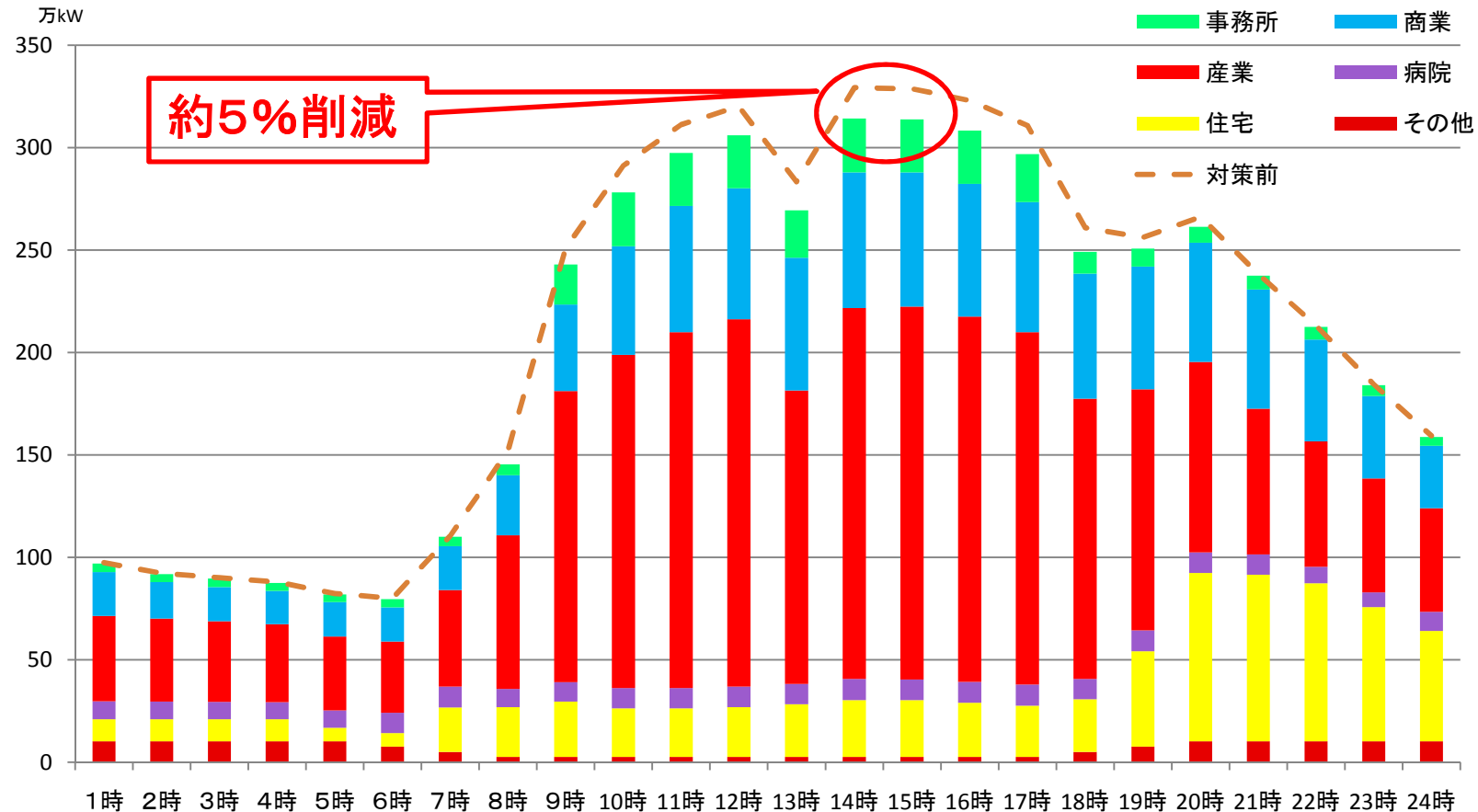
※資源エネルギー庁「家庭の節電対策メニュー」及び「小口需要家の節電行動計画の標準フォーマット」抜粋
※省エネルギーセンター「工場の省エネルギーガイドブック」抜粋

これらの対策を面的に展開し、岐阜県全体で実施した場合のピーク削減率を推計

なお、推計にあたっては次の点を考慮した

- ・住宅の空調機設定温度対策については、高齢者世帯を除く
- ・商業の店舗照明間引きの実施率は5割を想定
- ・産業の省エネルギー診断の実施率は2割を想定

ソフト面での省エネルギー対策を実施した場合の需要カーブ



※中部電力(株)岐阜支店の最大電力(平成22年8月31日をイメージ)に基づき、岐阜県で推計・作成
 ※事務所、商業、産業及び病院の需要カーブは固有施設の実データ、住宅の需給カーブは、「コージェネレーション総合マニュアル」による
 ※その他は、道路管理者への聞き取りによる

各部門における主なエネルギー対策

	ピーク対策	省エネルギー対策	新エネルギー導入※
住宅	・「すだれ」及び「よしず」による日差し低減 ・空調設定温度の徹底	・高断熱住宅の導入 ・LED照明の導入 ・トップランナー製品の導入 ・待機電力の低減	○
病院	未使用エリアの消灯	・LED照明の導入 ・トップランナー製品の導入	△ (小規模施設のみ)
商業	・照明の間引 ・空調設定温度の徹底 ・複数店舗による休日シフト	・LED照明の導入 ・トップランナー製品の導入	△ (小規模施設のみ)
事務所	・照明の間引 ・空調設定温度の徹底 ・複数事務所による昼休及び休日シフト	・LED照明の導入 ・トップランナー製品の導入	△ (小規模施設のみ)
産業	・設備運転の効率化 ・複数事務所による昼休及び休日シフト	・トップランナー製品の導入 ・生産プロセスの見直	×

※新エネルギー導入に当たっては、それぞれのエネルギー特性を考慮し、最適に組み合わせ、安定的で持続可能なエネルギー供給システムを導入する。当該システムは防災の観点からも有効である。